

歴史街道第9期計画

(平成30年度～平成32年度)

平成30年6月

歴史街道推進協議会

目 次

はじめに	… 2
「歴史街道」づくりの提言	… 4
I. 第8期中期計画振返り	
1. 第8期における事業展開	… 6
2. 第8期実施内容一覧	… 7
3. 第8期事業別レビューと第9期の課題・方向性	… 7
4. 第8期年度別会員推移（法人・個人）	… 13
5. 第8期年度別収支推移	… 14
6. 第8期計画目標到達度評価（会員団体へのアンケート結果）	… 15
7. 第8期総合レビュー	… 16
II. 第9期中期計画（案）	
1. 第9期中期計画策定にあたっての意見・要望（会員団体アンケートより）	… 17
2. 考慮すべき環境与件の変化	… 17
3. 第9期中期計画策定にあたっての考え方	… 18
4. 第9期中期計画骨子	… 18
5. 第9期中期計画主要事業施策	… 19
6. 第9期中期要員計画	… 25
7. 第9期中期収支計画	… 25
H30年度の事業推進区分	… 26
参考資料	… 29

はじめに

日本文化の発信と継承を目的とした「世界を考える京都座会」の「歴史街道」構想の提言（昭和63年3月）を受け、平成3年に歴史街道推進協議会（以下、協議会）を発足。「歴史街道マスタープラン」、「同マスタースケジュール」を推進指針に、平成6年に1期計画を策定。以来3年毎に中期計画を策定し、官民が広域的に連携しながら各種事業を推進してきました。本書はその「第9期計画」であり、平成30年度から平成32年度までの事業の方向性を示したものです。

今回、第9期計画の策定に当たっては、会員の皆様から第8期へのご意見や評価、地域の思いなどをお聞かせいただきました。

その中で、地域事業については、80%以上できているという総じて高評価を得ましたが、インバウンド関連の事業についてはまだ対応し切れていないのが実情で、低い評価になっていました。

広報事業については、複数団体との共同事業実施は80%の高評価をいただきましたが、デジタルネットワークについての対応ができていないとのご指摘がありました。

理念普及事業については国際協力機構（JICA）を通じた研修活動が主たるものであったため、関係者からは高評価を得ているものの、会員団体の方々には活動がわかりにくいという評価になりました。

また、歴史街道倶楽部については、会員が毎年減っているという状態になっている上に、事業について40%の方が「わからない」という回答でした。

一方、事務局では、平成27年度から平成29年度の間、各業務担当（地域事業・理念普及事業・広報事業）が取組んできた事業毎に、展開期間、実施回数、参加者数、支出額を振り返り、活動各事業3カ年の推移をみて、事業の継続、見直し、取り止めを検討しました。

また、第9期計画を策定する上での考慮すべき環境与件の変化を抽出した上で、会員の皆様からの意見を参考にして、次ページに記載した計画の具体的施策策定にあたっての考え方に基づき、その実現に取り組んで参ります。

(1) 歴史街道計画の原点（マスタープランで掲げた3つの目的）に立ち返る。

基軸となる「メインルート」の考え方が薄れているので、原点に戻ってメインルートを体感し得る企画・活動を構築したいと考えています。今までバラバラに実施してきた諸事業をメインルート中心にまとめ、点から線へ、そこから面に広げ、関西全体への誘客を図っていく。その為には、会員の皆様のお力添えを得て、他団体との連携（共催、協力、後援等）を最大限強化し、広域官民連携による当協議会の柱となる事業を構築していきたいと考えています。

(2) 当協議会の存在意義と時代ニーズから歴史街道の存在価値を示し、インバウンド対応力を強化する総括目標を設定する。

協議会は、四半世紀以上にわたり事業活動に取り組み、さまざまな形で足跡を残して評価されてきましたが、年とともに存在価値が薄れてきています。歴史街道計画を存続していくには、今一度協議会の存在価値を示さないといけないと感じています。

また、発足当時から9倍近くの訪日外国人客数となっている現実に対し、インバウンドへの対応が十分できていないという評価と、時代ニーズの観点からインバウンド対応力を強化して参ります。

第9期計画では、各会員団体の皆様には、これまで以上に参画意識を高めていただき、協議会の将来の在り方について方向性を決定づける3年間にしていきたいと考えています。協議会としてやる価値があるのか、その組織形態の必要の有無についても合わせて考えて参ります。

引続き、歴史街道推進協議会の活動に対し、会員の皆様並びに関係各位のご協力、ご支援をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

平成30年6月
歴史街道推進協議会

『「歴史街道」づくりの提言』

外国人に「日本について何を知っていますか」と尋ねると、まず返ってくるのは商品と企業の名前です。経済大国の日本としてそれは当然でしょうが、それ以外のことがほとんど知られていないのは寂しいことです。文化や歴史、功績ある人々の名前などがほとんど知られていないのです。

「人間の顔のない経済大国」、「商品を吐き出すブラックボックス」。日本に対するこうした評価は正しいものではありませんが、私たち日本人もこれまでは、自国の文化や伝統、こころや生活感覚を世界に知らせようという意識が薄かったことも事実でしょう。いや今も、日本の文化やこころを知らせるのは、貿易摩擦のため、よりよい経済関係を深めるため、つまり経済が目的で文化やこころの問題はそのための手段という気持ちがあるのではないのでしょうか。

さらにいえば、私たち日本人自身も、物質的な豊かさ、物理的環境の快適さや便利さを追い求めるのに忙しく、その根底にある日本の文化や伝統や特有の発想について考える余裕を失っているきらいがあるのではないのでしょうか。

今や日本は、世界の16%もの生産力をもち、世界の総輸出の5%にも当たる貿易黒字を計上し、世界中の貯蓄の半分以上を占める巨大な経済力をもつようになっています。日本の経済は、私たちの実感をはるかに超えて、国際化し巨大化しているのです。このままでは日本は「金儲けにしか関心のない国」という評価が定着してしまう恐れがあります。

このような現実を超え、日本人自身も外国の人々にも、長い歴史に培われた日本の文化とこころを深く認識するような実効ある具体的な計画を考える必要があると考えます。

そこで、私たちが着目したのは、日本の文化、日本人のこころが形成された過程を、その現場において見聞することです。

独特の風土を持ったこの国土で生まれた日本文化には、特有の性格があります。同時に世界にも類例のないこの国土の文明的位置の故に、東洋と西洋の文明を巧みに吸収し消化することもできました。現代の日本の文化と日本人のこころは、そうした歴史の成果として築かれたものです。従ってこれを正しく認識し深く理解するためには、歴史現場においてそれぞれの時代の文物と環境を味わうことが大切でしょう。

文化を知りこころを解するためには、書かれた文章を覚え、並べられた事物を知るだけでは充分ではありません。体験の記憶と自ら試みた実感をもって親しみひたるのでなければ、本当の文化を知ることにはならないのではないかと思います。

このような考え方から、私たちは日本の文化と歴史を体験し実感する旅筋、いわば「歴史を楽しむルート」としての「歴史街道」の開発整備を提唱するものです。

幸いにして日本では、主要な歴史の現場を、ほぼ歴史年代の順に訪ねる旅をすることができます。それは、さほど遠い距離でもなくあまり長い時間をかけることもない範囲にあります。つまり、「勤勉に楽しむ」日本人の性格にも、短い日数で日本を訪れる外国人にも、無理なく巡れるルートとなり得るのです。

この「歴史街道」構想は、日本人のこころに伝えられてきた「生なり」の文化の源流というべき神話の地・伊勢からはじまり、古代から中世にかけての三つの都一飛鳥、奈良、京都一とその近郊を巡り、秀吉以降の商人文化の中心地「大阪」、明治以降の国際交流を象徴する神戸を結ぶこととなります。

勿論、日本文化の最も古い歴史をもつこの地域には、多くの歴史文物があり、伝統的な行事や芸術技能が保たれております。また、隠された文物や知られざるころの跡も多いことでしょう。さらにこれから追加すべき「もてなし」のハードやソフトの開発も重要になるでしょう。新しい技術や思想を吸収し活用してきた日本の歴史そのままに、高度な技術や斬新な発想を導入しなければならないことも多いに違いありません。快適な移動方法や多彩な楽しみの導入も大切です。「歴史街道」は、常に開発され更新される知的な観光ルートでなければならないと思うからです。

文化は突如として興るものではありません。伝統を大切にしない文化が長く栄えたためしはなく、新しい技術と発想の導入なしに長く保たれた伝統もまたありません。豊かな国になった日本は、その歴史とところに根づいた文化を、歴史の現場から世界に発信する必要があります。私たちは、この「歴史街道」を現代に生かすことが、二千年の日本の歴史に新しい楽しみを加えると共に、百年後、千年後に現代の英知と繁栄を伝える試みでもあることを願うものです。

今、日本では新しい街づくり、新しい国際交流の場の建設が進められていますが、同時に先人から受け継いだ歴史の現場を、新たな知的興奮の舞台にすることも大切ではないでしょうか。

1988年3月

世界を考える京都座会

松下幸之助	天谷直弘	飯田経夫
石井威望	牛尾治朗	加藤 寛
高坂正堯	堺屋太一	斎藤精一郎
広中平祐	山本七平	渡部昇一